

教材名 「ふりだした雨」 (学校図書 4年 p.30 「善悪の判断、自律、自由と責任」)

1. 本教材について

学校からの帰り道、「空には黒い雲がどんどん走って行きます。」「空はすっかり暗くなって、まるで夕方のように」、すぐにでも強い大雨が降りそうな様子である。そのとききよし君は鶏小屋の掃除当番を思い出した。きよし君は、友だちが「先生だって、早く帰れって言うさ。さあ帰ろう。」と止めたが、学校へ走る。そして小屋の掃除をして責任を果たし、ほっとするという話。

▼題名「ふりだした雨」の右に並べて「せきにんを果たす」とテーマを明記しているため、読まなくてもおよその内容と結論は見当がつく。“責任を果たして良かった、皆もこのようでありなさい”・・・という教えだと。

本文では、急激な天気の変化で豪雨が予測される状況を設定し、その状況にあつて学校へ戻ったきよし君の行動を肯定的に描き、さらに別冊で、きよし君の責任感を強調している(問い1)。その上で読み手(子ども)の責任感を問い(問2)、責任を果たす主体的な姿勢や態度を評価しようとしている。

【別冊】p.4、一つ目の問い;「雨がふりだしたにもかかわらず、ほっとしたきよし君は、どんな気持ちや思いでいたでしょう。」

—— この問いは本文の記述(そじが終わってほっとした時、とうとう雨がふりだしてきました。「こまったなあ、どうしよう。」)に合っていない。即ち、導きたい答えの方向へ本文を歪曲している。そこには、きよし君の責任感の強さを強調しその行動を美化するねらいが感じられる。

【別冊】p.4、二つ目の問い;「自分がせきにんをもって行動した時、どんな気持ちになりましたか。」

—— 一つ目の問いできよし君の行動を“予想される困難にもめげずに責任を果たした”と評価した上で、その視線を読み手(子ども)に向けて責任感を問う。この問いは、ねらいを内面化させるとともに、子どもの「責任」に対する意欲や態度を評価する手がかりにされかねない。きよし君のような行動をとろうとは思わない子どもの内心は否定されかねない。

▼この教材は、個人の健康、安全、命を尊重する精神よりも、公共に尽くすことが優先されるべきという考え方を基本にしているといえる。この考え方を高学年、さらに中学の道徳に発展させていくと、任務を全うするためには命を顧みないという考え方につながる懸念される。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

○「せきにんを果たす」という言葉に導かれて本文と別冊を通して学習すれば、どんな状況であっても責任は果たすべきという強すぎる責任感(自己犠牲も辞さない)を育ててしまいかねない。授業で本教材を扱う際には、この問題を回避するため、状況を判断するための資料を提示し、安全が第一、命がだいじ、ということを押さえるようにする。

【参考資料】国土交通省・気象庁ホームページの、知識・解説「急な大雨や雷・竜巻から身を守るために」が分かりやすい。・小学生向けの啓発ビデオもある。(※動画を公開している。)

※抜粋; 突然の豪雨は警戒しなければならない。落雷、竜巻、突風、道路の冠水、水路の増水など引き起こす場合がある。安全な場所で豪雨をやりすごすことが大事。

○教科書の本文には、豪雨の前触れの様子が端的に記述してある。

「急に風がふきだしました。」「黒い雲がどんどん走っていきます。」、

「空はすっかり暗くなって、まるで夕方ようです。」「この空では、すぐ大雨がふってきそうです」、

……これらの言葉により、突然の豪雨の前触れであることがわかる。その状況を踏まえた上で、警戒しなければならないこと及び、安全な場所で豪雨をやりすごすことが大事であることを、資料に基づいて理解させる。

○教材文を最後まで読んでしまうと、「せきにんを果たす」というねらいに誘導されるので、きよし君が「にわとり小屋のそうじをわすれたんだ」と言った所まで読み、そこで止める。そして、3人の会話や行動を自分たちで考える問題解決的な学習にしていく。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	○きよし君が「にわとり小屋のそうじをわすれたんだ」と言った所まで読み進め、そこで止める。	・天候の急速な変化に留意する。
展開	○そこ(止めた所)までの状況をていねいに読み取る。 「急に風がふきだしました。」 「黒い雲がどんどん走っていきます。」 「空はすっかり暗くなってまるで夕方ようです。」 「この空では、すぐ大雨がふってきそうです」…… ○急な大雨は警戒を要すること、身を守ることを確認する。——資料や動画(防災啓発ビデオ)などを見る。	・突然の豪雨の前触れであることを押さえる。 ・気象庁の啓発資料や動画教材を利用するとわかりやすい。
閉	○「にわとり小屋のそうじをわすれたんだ」と言ったきよし君へ、どんな言葉をかければいいのかを考える。 ——2～3人のグループで、きよし君役と友だち役になって、役割演技(会話)をしながら考える。 ○考えた会話を紹介し合う。	・安全第一を踏まえて会話を考える。 【友だち】——大雨になりそうだ。掃除は明日でもよくない？先生に電話で相談しよう。明日の朝すぐに掃除しよう。集中豪雨は危険がいっぱいなんだ。……など 【きよし君】——当番だから……。降るかなあ。わかった、急いで帰ろう。——など
まとめ	・教材文の後半を読み、自分たちの考えと比較対象する。 ・自分なりのまとめをする。※別冊の問いに替えて。	・後半の教材文を必ずしも扱う必要はないが、読めばきよし君の行動は反面教師となる。

4. 参考資料 国土交通省・気象庁ホームページ、知識・解説「急な大雨や雷・竜巻から身を守るために」